

<今回>208回目 2017年4月10(月)16時~18時 1503号室
読書は8冊目「邪馬壹国の論理」239P 私はこう結論する より

<前回>207回目(17-3-24) 出席者9名

資料 17-03-24-1) 前回のまとめ(清水)

-2) 日程表(5月12日を5月8日に変更、途中部屋が変わる。)

-3) 長柄桜山古墳群見学会(高山)

A 報告

暖かくなるのか期待させるが、朝晩はまだ寒い。菅原氏が久々に出席。

津多家で6名、8514円(1500・6)、+486円

B 資料 -2) 8月までの日程表を配布、5月は12日を8日(月)に変更のため要注意、途中で隣の部屋に引っ越し。
-3) 3月31日に逗子の桜山古墳の見学が案内された。整備はされたが、内部の発掘計画はないらしい。平成11年に地元の民間人が発見、神奈川県最大の古墳、見晴らしはよい。集合31日14時15分 JR 逗子駅改札口

C p233 倭の5王は九州筑紫の王者

1) 宋書(5世紀)倭国伝の倭王武の上表分;東は毛人を征すること55國、西は衆夷を服すること66國、渡りて海北を平らぐこと95國。武は臣と称して中国天子の藩と自称した。文面上の大義名分の原点は中国の方にある。衆夷は建康(今の南京)を原点とする夷蛮表記である。

2) 日出処の天子と称した隋書倭国伝の多利思北孤ですら、中国の使者に相対すれば「我は夷人」述べている事実がある。近畿天皇家を原点とする東の毛人、西の衆夷と誤解してきたのは大義名分と用字法を乱暴に無視し、歪曲した誤解というほかはない。西なる衆夷は倭王自ら都する周囲すなわち九州である。東の毛人は日本の中国四国の西半分、海北というのは朝鮮半島と北を示している。

3) 漢書地理志の倭人百余国と宋書の55+66=121國とは筑紫を原点とした銅鐸圏とほぼ同じ数字を示している。

4) 貢献記事の史料性格 漢書地理志の百余国とは筑紫を原点とする武器型祭祀圏とその倭人のさらに東の端っこに人(東鯤人)とは銅鐸圏の国々以外にはない。

5) 歳時貢献とは単なる気まぐれや趣味の問題ではない。優れて政治的軍事的な安全保障の問題である。大漢帝国の傘の下に入るという政治的行為だった。秦の大統一を経て大漢帝国は古代帝国の常として帝国主義的膨張を図るとき陸続きの三方の夷蛮の国々は絶えざる圧迫に苦しみ、歳時貢献というような安定した政治関係にはない。日本列島は海を隔てているから歳時貢献という安定した政治関係を早く定着させることができた。

6) 二つの異なった政治・文化圏が別々のルート燕地、呉地を通じて歳時貢献してきた。班固の東夷従順は倭人だけでなく東鯤人も含む表現だったのである。①中国正史の漢書には②歳時貢献、③青銅器出土物の分布と④東の端に当たる人々を表しているのである。

7) 後漢書の東鯤人の記事は漢書を受け継いでいる。三國志にはない(侏儒國、裸國、黒齒國はある)五世紀時点の范曄の新たな視点で広い意味の倭伝の中であつかわれている。

8) 中国史書の記録するところの東鯤人は前漢から後漢(前2, 3世紀から3世紀)にかけて歳時貢献して定期的にその存在を確認していた。東鯤人蒸発の時期は後漢滅亡の220年から西晋統一の280年の間にあり、銅鐸文化滅亡と対応している。

次回日程 4- 4-21(金) 16時~18時 1503号室

5-8(月) 601号室と602号室 15時から18時

5-26(金) 16時~18時 1503号室